

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2023年 5月 29日	
岩手県知事 達増 拓也 殿	
提出者 住 所 岩手県二戸市石切所字火行塚25 氏 名 ㈱十文字チキンカンパニー 代表取締役 十文字 保雄 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0195-23-3377	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	上館第2ファーム
事業場の所在地	岩手県九戸郡軽米町大字上館
計画期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	01：農業（畜産業 ブロイラー飼養）
② 事業の規模	年間生鳥出荷羽数 約 395,000羽
③従業員数	
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・鶏糞→自社処理（醗酵処理）→醗酵鶏糞（普通肥料・特殊肥料として販売） ・鶏糞→自社バイオマス発電所にて燃料として使用→鶏糞燃焼灰（販売） ・鶏糞→自社醗酵工場にて燃料化（醗酵・水分調整）→バイオマス発電所にて燃料として使用→鶏糞燃焼灰（販売）

(日本工業規格 JIS A 列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
 廃棄物担当者
 ↓
 産業廃棄物処理責任者
 ↓
 産業廃棄物担当者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	排 出 量	1,136 t	t
	(これまでに実施した取組) ・飼育管理による水分率の低減、及びおが屑使用量削減。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	排 出 量	1,102 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・飼育管理による水分率の低減、及びおが屑使用量削減の継続。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	1,136 t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	・ 自社バイオマス発電所にて燃料として使用。(鶏糞燃焼灰は配合肥料原料及び肥料として販売)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	1,080 t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	22 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	・ 醗酵処理し堆肥化。(製品化) ・ 自社バイオマス発電所にて燃料として使用。(鶏糞燃焼灰は配合肥料原料及び肥料として販売)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿	
	全 処 理 委 託 量	0 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		

上館第2 フォーム

数値は、
上段:前年度実績値
下段:今年度目標値

